

# 卒論など論文での時制

このスライドでは、  
多くの分野で使用されている IMRAD (Introduction, Methods, Results, and Discussion) 形式の論文を例に、  
論文での時制を説明します。

※ このスライドの内容は IMRAD形式を使用しない論文にも応用できます。

※ IMRAD がどのような構成かよく分からない方は WSDチューターによる[こちらの動画](#)をご覧ください。

(このスライド中の例文は論文での時制の使い分けを説明する目的で作成され、著者名や内容は全て架空のものです。様々な引用スタイルがあるため、このスライドではcitation は入れていませんが、実際に論文を書くときは必ず使用するスタイルに指定されているやり方でcitation を入れます。)

# はじめに

論文での時制の使い分けは分野や学術雑誌、スタイル(APA や MLA など)により異なります。スタイルや学術雑誌が時制に関する細かいガイドラインを設定している場合もあります。まずはガイドラインがあるかを確認し、ある場合はそれに従います。また、分野で有名な学術雑誌をみて、時制の使い分けがどうなっているかを確認するようにしましょう。

このスライドでは1つの例として、IMRAD の構成に沿って、各セクションでどの時制を使用することが多いかを取り上げます。

# Introduction での時制

★研究の背景を説明するとき → [時制:基本](#)のスライドをご覧ください。

★先行研究について書くとき → 基本的には [時制:基本](#)のスライドの説明の通りです。それ以外に、以下のポイントを押さえましょう。

- 特定の先行研究ではなく、先行研究一般について書くときは、以下の形で Previous research や Prior research や Researchersなどを主語とし、現在完了形の動詞を続ける形を頻繁に用います。

例 Previous research has shown that access to clean water is essential for reducing child mortality rates.

例 Researchers have examined whether there is an association between household income and mental health.

- 特定の先行研究に言及するセンテンスで、著者をセンテンスの主語とするときの著者名に続く動詞の時制は主に過去形、現在形
  - (a) 先行研究の中で著者が行ったこと、研究方法や結果を示すとき
    - 主に過去形
  - (b) 論文の中での著者の議論など、著者が書いたことを示すとき
    - 主に現在形、過去形を使用するスタイルもある

#### (a) の例

- (1) White et al. conducted a survey to investigate the relationship between diet and BMI.
- (2) White et al. designed an experiment to examine whether temperature affects the rate of photosynthesis.
- (3) White et al. added Substance A to the soil.
- (4) White et al. found that regular exercise is associated with reduced stress levels.

## (b) の例

- (1) White et al. argue that Roosevelt's New Deal was effective.
- (2) White et al. claim that MacArthur played an important role in the democratization of Japan.
- (3) White et al. suggest that more emphasis should be placed on teaching critical thinking.
- (4) As White et al. note, inflation is difficult to control.

## ★研究の目的を述べるとき → 主に現在形

例 This study aims to investigate the relationship between language and culture.

## ★論文の構成を示すとき → 主に現在形、will + 動詞の原形を使用するスタイルもある

例 Chapter 3 provides an overview of the theoretical framework.

例 Chapter 6 presents the results and their implications.

# Methods での時制

★研究の中で行ったことを示すとき → 過去形

備考: 能動態で書くか受動態で書くかについては、分野やスタイルにより異なり、決まりがある場合もあります。

例 I conducted semi-structured interviews with 20 university students living in Japan.

例 The participants were divided into three groups.

例 The following search terms were used.

例 Data were analyzed using SPSS Statistics 28.

★手法などについての事実を示すとき → 主に現在形

例 This procedure reduces sampling bias.

# Results での時制

## ★Results での時制は主に過去形

例 Those who exercised more than three hours per week were significantly less likely to experience symptoms of fatigue.

例 The mean test scores for Groups 1, 2, and 3 were 8.8, 7.6, and 4.0, respectively.

例 A majority of the survey participants responded that they would consider using the Writing Support Desk.

### - will と would

「Writing Support Desk を利用することを検討する」ことは調査の参加者が「調査に回答した」時点より後に行われることなので、なぜ will consider としないのか疑問に思うかもしれません。will は、現在を基点として、未来に起こることに使用します。would は過去のある時点を基点として、未来に起こることに使用します。ここでは、「調査に回答した」時点という過去の時点を基点としたときに、未来に起こることが「Writing Support Desk を利用することを検討する」ことなので、would を使用します。

★Table や Figure に言及するときは現在形

例 Table 3 shows the number of people who were living in each town in 2010.

例 Descriptions of the paintings examined in this study are provided in Figure 7.



# Discussion での時制

## ★Results の解釈を示すとき

(a) 自分の研究や研究対象者のみに当てはまる解釈を示すとき

→ 現在形と過去形を両方使用することが多い

(b) 自分の研究以外や研究対象者以外にも当てはまる一般的な解釈を示すとき

→ 主に現在形

例 More than 80 percent of the high school students whom we interviewed stated that they struggled to balance school and life. This finding suggests that the students whom we interviewed lacked time management skills.

- 1つ目のセンテンスは研究結果を示しているので、時制は Results セクションと同様に過去形を使用
- 2つ目のセンテンスは1つ目のセンテンスで示された結果の解釈を述べている  
suggests (現在形) 現在も過去も未来も1つ目のセンテンスの内容は2つ目のセンテンスの内容を「示唆する」と伝えたいので現在形を使用  
lacked (過去形) 2つ目のセンテンスで示している結果の解釈は「我々がインタビューした高校生」のみに関してであり、伝えたいことは、現在も過去も未来も我々がインタビューした高校生の時間管理スキルは不足していた、という事ではなく、インタビューの時点では時間管理スキルは不足していた、ということなので、過去形を使用

例 More than 80 percent of the high school students whom we interviewed stated that they struggled to balance school and life. This finding suggests that high school students lack time management skills.

- 1つ目のセンテンスは研究結果を示しているので、時制は Results セクションと同様に過去形を使用
- 2つ目のセンテンスは1つ目のセンテンスで示された結果の解釈を述べている  
suggests(現在形) 現在も過去も未来も1つ目のセンテンスの内容は2つ目のセンテンスの内容を「示唆する」と伝えたいので現在形を使用  
lack(現在形) 2つ目のセンテンスで示している結果の解釈は「我々がインタビューした高校生」のみではなく「高校生一般」に関してであり、伝えたいことは、高校生の時間管理スキルは不足している(そして、それは現在にも過去にも未来にも当てはまる事実だ)ということなので、現在形を使用

★先行研究に言及するとき → Introduction で先行研究について書くときと同じ時制の  
使い分け

★研究の強みや限界を示すとき → 主に現在形又は過去形

例 This study has some limitations. / This study had some limitations.  
(has(現在形)も have(過去形)もよく使用します)

★今後求められる研究について書くとき → 主に現在形又は will + 動詞の原形

例 Further studies are needed to investigate the relationship between diet and  
obesity in children.

例 Further studies will be necessary to identify the causes of long COVID.

# 備考

- 数学など時間と共に変化しない事柄を主に扱う分野では Methods と Results も過去形ではなく主に現在形を使用します。
- 文学作品や映画の中のフィクションの出来事を説明するときの時制の使い分けは一般的な使い分けと異なります。以下のサイトをご覧ください。

<https://www.brandeis.edu/writing-program/resources/faculty/handouts/verb-tenses-literature.html>